



金沢市立鳴和中学校 学校だより

い ら か

令和8年度 第10号

発行日: 令和8年9月30日

発行責任者: 校長 鶴見隆之輔

『ことば』がもつ力

多くの人には、お気に入りの歌や読み物というものがあると思います。その中には、その歌を聴いたり文を読んだりすると元気が出る、頑張ることができるなど、自分の気持ちを前向きにしてくれたり奮い立たせてくれたりするものがあると思います。それはもちろんメロディーが心地よいということや内容に興味を湧くということもありますが、何といたっても自分の気持ちが歌詞や文に感情移入している、つまり、『ことば』に共感しているのです。これまで、その『ことば』のおかげで、助けられたり、勇気をもらったり、気持ちが晴れやかになったりした経験はありませんでしたか。

『願い』ということも、例えば、「今度の大会で勝てますように」とか、「怪我がはやく治りますように」とか、口に出しても出さなくても、そこには『ことば』が存在します。その『ことば』を何度も何度も繰り返し言うことで、『願い』が叶った経験はありませんでしたか。

一方で、暴言や悪口、罵倒など、その『ことば』を聞くと嫌な気持ちになる、暗い気持ちになるなど、自分の気持ちが後向きになったり考えることをやめたりするものもあります。これは、自分のこころが暴言や悪口に拒否反応を示している、つまり、『ことば』を拒絶しているのです。これまで、その『ことば』のために、人を信じられなくなったり、絶望したり、やる気をなくしたりしたことがあるのではないのでしょうか。

そのように考えると、『願い』も、例えば、「テストが実施されなければいいのに」とか、「先生に注意されればいいのに」とか、自分のことを優先させて相手のことを考えない『ことば』にもなります。その『ことば』を浮かべたり考えたりすることで、そんな自分を嫌になったり責めたりする経験はありませんでしたか。

同じ『ことば』でも、そのときの自分の気持ちや状況、捉え方によって、重くなったり軽くなったりします。自分自身も相手も、喜ばすこともできれば、傷つけたりすることもできるのが、『ことば』なのです。その使い方が正しければ自分自身も相手も幸福になり、間違っていれば不幸になる、それが『ことば』がもつ力なのではないのでしょうか。

私たち人類は、ヒトとして進化・成長の過程で、他の動物にない『ことば』という力を手に入れました。その大きな力を最大限有効に活用しなければなりません。そのためには、私たちが、『ことば』をどのような想いで、どのように使うかが、とても重要となります。

大切なのは、相手を思いやる気持ちなのではないのでしょうか。

<お知らせ①>

【10月からの服装について】

本校では、熱中症防止のため、6月1日以降、体操服登校も可としてきました。昨今の気候の状況を鑑み、10月1日(木)の運動会以降は体操服登校を打ち切らせていただきますので、ご了承ください。制服の準備をお願いいたします。

<お知らせ②>

【学校公開週間について】

11/1(日)～7日(土)の「いしかわ教育ウィーク」の期間、本校は2日(火)、5日(木)、6日(金)を学校公開日として設定しております。(公開時間は、3日間とも2限～4限)子どもたちの活動の様子をご覧いただければ幸いです。